

用排水路、ため池等への転落事故における死亡者数

用排水路、ため池等への転落事故における死亡者数は、毎年**100人以上**となっています。

このうち子供（20歳未満）の死亡者数は、毎年5人程度となっています。

	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
死亡者数	154	125	103	124	121	122	140	146	146
うち10歳未満	3	3	3	2	2	3	1	0	2
うち10歳以上20歳未満	2	4	3	2	3	3	3	0	3

(人)

200

154

125

103

124

121

122

140

146

146

50

0

H28

H29

H30

R1

R2

R3

R4

R5

R6

■ 死亡者数

■ うち20歳未満

用排水路の危険性

ゲリラ豪雨などが発生すると、一気に水路の水位が増水し危険なため、用排水路などへ近づいたり、遊ばないように注意してください。



転落事故防止の啓発ポスター (全国土地改良事業団体連合会 作成)

別紙

全国水土里ネット（全国土地改良事業団体連合会）では、ため池や用排水路などへの転落防止を呼びかけるポスターを作成し、無償でデータ提供していますので、御活用ください。

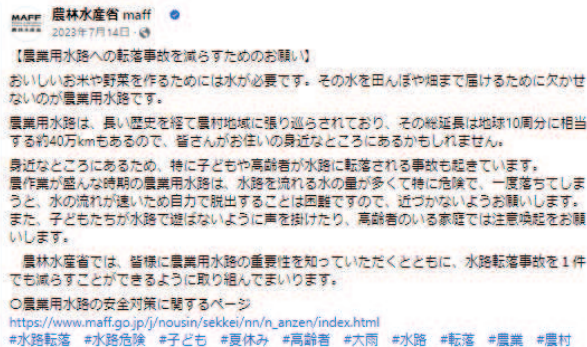


- 【農業用水利施設の安全対策啓発ポスターURL】
- <https://www.inakajin.or.jp/works/support/land/poster>

農業用の用排水路への子供の転落事故防止のための啓発活動の取組事例

毎年、3～4月頃から様々な方法で、農業用の用排水路への転落事故防止対策を周知しています。

農林水産省公式Facebookや
X（旧Twitter）を活用して転落事故防止
対策を周知



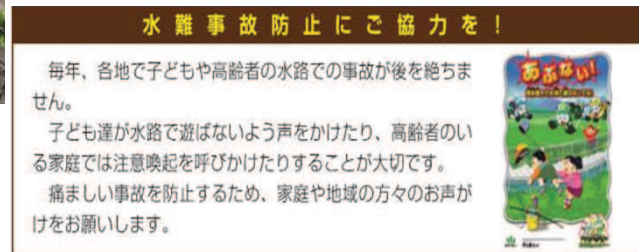
■ 農林水産省公式Facebookページ
<https://www.facebook.com/maffjapan>

■ 農林水産省公式X(旧Twitter)
https://twitter.com/MAFF_JAPAN

一般紙を通じて地域に転落事故防止対策を周知



施設管理者が発行する広報誌により
転落事故防止対策を周知



地域の小学生を対象に、農業用の用排水路の見学会を行い、
農業用の用排水路の役割や危険性について認識を深めてもら
うよう周知



マスメディアを活用して地域
に転落事故防止対策を周知



総合学習（出前授業）を活用し
て転落事故防止対策を周知



農業用ため池への子供の転落事故防止のための啓発活動の取組事例

ため池事故防止・注意喚起動画の作成（宮城県）

宮城県では、児童、教師、保護者等に、ため池の役割や転落事故の危険性の理解を深めてもらうための動画を作成するとともに、教育機関と連携し、動画の周知と活用を図っています。

<取組内容>

- 「ため池事故防止・注意喚起動画」を県広報課YouTubeチャンネルで公開（R4年7月）
URL : <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/nosonshin/tameike-rule.html>
- 動画の周知と活用を図るため、県教育委員会と連携し、以下の取組みを実施
 - ・警察署や消防署，教育委員会等が参加する会議での情報共有
 - ・学校向けに配布する広報誌への情報掲載
 - ・全小学校に動画活用について案内するとともに、保護者等への一斉メール配信の実施
 - ・職員による小学校への出前講座の実施



ため池事故防止・注意喚起動画



小学校での啓発活動

小学校と連携した「ため池ふるさと教育プログラム」の実施（兵庫県）

兵庫県では、ため池等を地域の財産として認識するとともに、ふるさとへの愛着を醸成するため、6年間の継続的な体験型の学習機会を提供する「ため池ふるさと教育プログラム」を実施しています。

<4年生の授業内容>

- ため池の役割や意義のほか、危険性についても学習し、ため池で溺れた時に浮き輪代わりとなる救助具「レスキューペットボトル」を発案。
- ボトルの数や重さ、ロープの取り付け方法などを実際に近くのため池で検証しながら製作、設置。
- この取組は、新聞やテレビのニュースなどにも取り上げられました。



ため池学習の様子

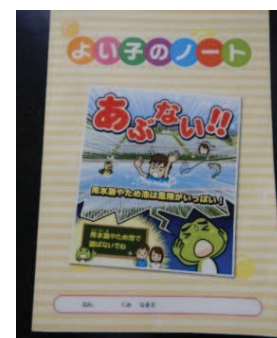


レスキューペットボトル発案



レスキューペットボトル設置

教育機関と連携して、小学生等にチラシ等を配布



ノートの配布（北海道土地連）



チラシの配布（青森県）



チラシの配布（新潟県）